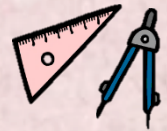




# 算数・数学部報



## 第3回読書会

7月10日(火)第3回読書会が総合学習センターで行われました。今回は「教育研究論文の書き方について」というテーマのもと、算数・数学科指導員の加藤良彦先生と秀野亜友先生に論文を書くことの意義、論文のまとめ方などを分かりやすくお話ししていただきました。学期末のお忙しい中でしたが、他教科の先生方にも参加していただき、大盛況となりました。



### 【読書会参加者の感想】

六ツ美中学校の加藤先生のお話を聞いて、論文を書くには一貫性がとても重要であることを学びました。実際に自分の論文を見て、一つずつ照らし合わせていくと、論がぶれてしまっている部分があり、一貫性があるとはどういうことなのかがよく分かりました。今後、論文を書くときには、「〇〇において、△△を□□すれば、～になるだろう」という仮説の方策部分と自分が講じた手立てが論としてつながっているか、また、～になるだろうと書いている部分が目指す子ども像になっているか、確認しながら書き進めていきたいです。  
(文責 北野小 松下萌香)

読書会の詳しい内容につきましては、算数・数学ホームページ

<http://cms.oklab.ed.jp/sugaku/index.cfm/1,835.c.html/835/20180724-094948.pdf>をご覧ください。

## 夏休み各研修の報告

### ☆授業力・教師力アップセミナー

8月2日(木)基礎編が岡崎市民会館で行われました。「主体的・対話的で深い学びの実現」というテーマのもと、矢作西小学校校長の深津伸夫先生にお話ししていただきました。



生徒が生活を数学で見つめ直そうと日常の中の不思議なことや、疑問に思っていることを授業で学習してきた内容を振り返りながら個人追究をしていくという魅力的な授業実践を紹介していただきました。生徒は「黄金比はなぜ美しいのか」「おむすびはなぜ三角形なのか」など様々なテーマを個人追究していく中で、全員が教師と対話をし、自分の考えを表現し、深めていく。さらに、対話は教師とだけではなく、級友とも自然に行われるようになり、自分の考えをどうしたら級友に伝えることができるのか、試行錯誤しながら表現の仕方を工夫していく姿は、これから私たちが目指すべき生徒像だと実感しました。他にも、ピンホールカメラを実際に作って撮影し、自分たちの思い通りの写真を撮るにはどうしたらよいのかと主体的に取り組む実践も紹介していただき、充実したセミナーになりました。

また、8月6日(月)7日(火)には応用編が岡崎市総合学習センターで、講師に額田中学校校長の北村文啓先生、岡崎市教育委員会指導主事の畔柳英徳先生をお呼びして行われました。

### 【基礎編参加者の感想】

前半は「学習指導要領改訂」について、改訂の社会的背景や基本方針、算数・数学科における改訂のポイントについて、後半は「私の授業実践」と題して、講師の深津先生が実際に取り組みされた3つの授業実践についてのお話を聞きました。講義を通して、「この子にとっての深い学びとは何か」「この子の願いをかなえ、成長させるにはどうすべきか」という視点に立って、まずは教師自身が子どもたちと向き合い、対話を重ねていく。これが、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた大切な第一歩であるということを知りました。  
(文責 宮崎小 岩瀬富雄)

### 【応用編参加者の感想】

「応用編」では、「教育の変遷からみる、今求められている数学教育」について学びました。指導要領改訂のポイントや移行期間での指導や「箱ひげ図」の指導など問題を解きながら指導法を学びました。畔柳先生の「教師が生徒に何を求めるかで、生徒の成長は変わる」という言葉にあるように、教師が事前に教材研究をし、生徒が自ら学びを深められるような指導力を身に付けていきたいと感じました。

(文責 竜海中 鈴木佑典)

## ☆全国算数・数学教育研究大会（東京）大会

- ・日 時 8月3日（金）、4日（土）
- ・場 所 東京理科大学、文京シビックセンター、北区立王子小学校、昭和第一高等学校 他
- ・提案者 田中勇至先生（葵中）、大池健太先生（新香山中）

### 【参加者の感想】

今回初めての県外での研究大会ということで、同じ部会で発表した先生から多くのことを学ばせていただきました。自分が発表した「正の数・負の数」の単元では、中学校1年生が負の数を使って正しく計算ができるよう、基礎的な内容を定着するために、たくさんの先生が様々な手立てを使って授業をしていました。まだまだ自分自身の経験が浅いので、この発表でご助言いただいたことを忘れずに、今後の授業に生かしていきたいです。（文責 葵中 田中勇至）

私は、中学校1年生「資料の活用」の実践について提案しました。今回提案したことで、たくさんのアドバイスをいただくことができました。助言者からは、紙飛行機の実践は、数学の様々な学習に応用できるとご助言いただき、もっと数学について追究していきたいという気持ちになりました。他の先生の発表の中には、新たに中学校2年生の学習内容に加わる箱ひげ図の先行実践があるなど、教材のおもしろさ、生徒目線の学習など、多くのことを勉強することができました。（文責 新香山中 大池健太）

## ☆愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会 安城大会

- ・日 時 8月8日（水）
- ・場 所 安城市民会館 安城市教育センター アンフォーレ
- ・提案者 中学校2・3年 濱田明弘先生（岩津小）



### 【参加者の感想】

濱田先生が「関わり合いの中で、共に考え、根拠を明らかにして説明できる生徒の育成」を研究主題に発表されました。手立てとして、意図的なグループ編成を行い、少人数や全体の場で自分の考えを説明する場面を設定されていました。参観者からは、グループ編成上の意図について詳しく聞きたいという質問があり、濱田先生は担任の先生と相談し、授業の核となる生徒を分散させたり、説明することが苦手な生徒が集まったりしないように工夫をしたと話されました。私自身も席替えはクジではなく、教師が決めています。隣同士や4人グループになったとき、人間関係などをふまえながら席を決めるのは労力がかかりますが、よりよい授業にするためには有効な手立てだと思いました。

愛知教育大学の青山和裕先生のご助言の中に、何のために、誰に向かって、説明するのかを明確にしたら、もっと説明が上達するというお話がありました。授業をしていると、ついつい先生に向かって上手に説明する生徒が出てきて、教師はそれに満足してしまいがちです。私もよくやっていました。そんなときは、他の生徒に「分かった？」と問い返したり、「同じ説明をしてください」と別の生徒を指名したりするなど、全体の場に問い返す必要があることが分かりました。また、生徒が複数の解法を発表したときに、解法の優劣を決めるのではなく、それぞれのアイデアの面白さやよさを認めてあげることが大切だと分かりました。自分と友達の考えを比較し、共通点や相違点を見つけ、それぞれを認めることが、深い学びに近づく手段の一つと分かりました。（文責 三島小 神谷明彦）

## 岡崎市教育研究大会

今年度の教育研究大会は、台風のため中止となりましたが、新任の先生を中心に、算数で33本、数学で19本のレポートが提出されました。来年度は、新任の先生以外のレポートも増やし、より充実した協議のできる研究大会にしましょう。

✿ 県教研 正会員 井畑絵美梨先生（梅園小） 青山将太郎先生（六ツ美中部小）  
河上 翔太先生（美川中） 前原 章由先生（東海中）

**岡崎市の代表としてご活躍を期待しています！！**

## お知らせ

### 六ツ美南部小学校授業研究協議会について

#### 対話でつなぐ授業 一考察



平成30年10月17日（水）に算数の授業が12本公開されます。自分の考えを整理する「心内対話」と、思考の変容を振り返るための「六ツ南コミカ（コミュニケーションカード）」を用いた研究です。ぜひご参加いただき、授業者と語り合しましょう。